

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 萩保健医療圏

対象医療機関名: 医療法人医誠会都志見病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		萩医療圏において、報告では構想必要病床と比較し急性期が56床、慢性期が196床が過剰、回復期が124床不足となっている。当院においては看護職不足による急性期の非稼働休棟病床が58床あり、再稼働は困難な状況である。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		急性期1病棟58床を休棟中であり、稼働病床は3病棟で急性期60床、回復期57床、慢性期(医療型介護)59床である。看護職確保の目途が立たず、休棟中58床の稼働再開が困難だけでなく、慢性期の看護配置も難しい状況が続いている。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期58床、慢性期59床を削減する。 削減理由： ①看護職不足により夜勤をはじめとした看護配置ができない状況である。 ②人口減少に伴い入院患者数が減少し病棟稼働率が低下している状況であり、稼働病棟(急性60床、回復期57床)に人的・物的資源を集約し地域に必要な入院診療機能を維持するための計画である。 ③廃止する入院慢性期機能は地域に必要な在宅診療に変換する計画である。	
	対象の病棟・病床の概要	休棟中の急性期58床および現在稼働中の稼働率60%未満の医療型介護病床慢性期59床である。	
	新興感染症に係る協定締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	○協定あり ・ 協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	削減する病床は確保病床ではないので影響はないものとする
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由	削減予定の急性期58床は休棟中であり、これまで地域医療に影響は与えておらずかつ入院医療の継続において支障はないものとする。稼働率の低い慢性期59床については、医療圏で余剰でありその削減が入院医療継続や地域医療に及ぼす影響はないものとする。削減により人的・物的資源を、急性期、回復期並びに在宅診療に注入することで入院診療の継続と地域医療の維持に注力する考えである。地域医療構想と整合性が取れた削減計画であると考えている。		

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期					58	2026/9/30	58
回復期							
慢性期					59	2027/3/31	59
合計					117		117

【参考: R7病床機能報告(萩保健医療圏の状況)】

病床区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告						
①R7 (2025)現状		234	57	428	58	777
②R8 (2026)予定		234	57	428		719
構想						
③R7 (2025)必要数	24	178	181	232		615
④構想との差(R7) (①-③)	△ 24	56	△ 124	196	58	162
⑤構想との差(R8) (②-③)	△ 24	56	△ 124	196		104

対応方針（2025プラン）の変更（都志見病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期			・ 急性期、回復期、慢性期機能を担う	看護職確保が困難であることに加え、将来の 医療需要を勘案し非稼働休棟中の急性期 5 8 床と稼働中慢性期 5 9 床を削減する。 急性期 6 0 床と回復期 5 7 床計117床で急性期 機能ならびに回復期機能による入院医療を継 続する。 廃止する入院慢性期機能は地域に必要な在宅 診療に変換することで地域医療の維持に努め る。 削減により生じた人的・物的資源を急性期、 回復期並びに在宅診療に注入し入院医療の継 続と地域医療の維持に注力する計画である。	高 度 急性期			令和9年3月実 施予定
急性期	60	60			急性期	60	<u>60</u>	
回復期	57	57			回復期	57	<u>57</u>	
慢性期	59	59			慢性期	59		
休 棟	58	58			休 棟	58		
合 計	234	234			合 計	234	<u>117</u>	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 萩保健医療圏

対象医療機関名: 全真会病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		萩医療圏について、地域医療構想の必要病床数と病床機能報告を比較すると、急性期と慢性期の病床が過剰である一方、回復期病床が不足している。また、課題とされる二次救急医療への対応や医療従事者の高齢化・不足等にも対応するため、中核病院の形成に向けた検討が進められている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、慢性期54床、介護医療院54床を保有している しかし、看護師等の人材確保が困難な状況が続いており、加えて入院患者の減少(R7年度は50床以下)により慢性期病床の稼働率の低下が続いている。 これを契機に、病院全体の人的資源をはじめとする経営資源の最適化を迫られている状況にある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	慢性期4床を削減する 削減理由は、 ①看護師等の人材不足によって、人員配置を適正化する必要が生じたため ②入院患者の減少により病床の稼働率が低下したため ③削減した病室をご家族の待機室等へ変更しサービスの向上を目指すため	
	対象の病棟・病床の概要	届け出入院基本料:療養病棟入院基本料2 許可病床数 54 床	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり・協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		削減後の残り50床は、人的・物的資源を集約し、現状の病床稼働率を考えれば、継続的な入院医療を今後も提供できるものとする。 なお、地域全体として過剰と見込まれる慢性期の病床を削減することは地域医療構想の実現にも資するものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7	削減時期	R8	削減時期	計
		削減時期		削減時期		削減時期	
高度急性期							
急性期							
回復期							
慢性期					△ 4	2026/10/31	△ 4
合計					△ 4		△ 4

【参考: R7病床機能報告(萩保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R7 (2025)現状		234	57	428	58	777
	②R8 (2026)予定		234	57	428		719
構想	③R7 (2025)必要数	24	178	181	232		615
④構想との差(R7) (①-③)		△ 24	56	△ 124	196	58	162
⑤構想との差(R8) (②-③)		△ 24	56	△ 124	196		104

対応方針（2025プラン）の変更（全真会病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期	0	0	・ 慢性期機能を担う。	・ 将来の医療需要を見据えるとともに、医師・ 看護師等の限られた医療資源を最大限効率的に 活用し削減した病室を利用し患者家族へのサー ビス向上を目指すため、慢性期病床数を4床減 らし、50床へ見直す。	高 度 急性期			令和8年10 月実施予定
急性期	0	0			急性期			
回復期	0	0			回復期			
慢性期	54	54			慢性期	54	<u>50</u>	
休 棟	0	0			休 棟			
合 計	54	54			合 計	54	<u>50</u>	

対応方針（2025プラン）の変更（萩市民病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容				備考 （対応方針の実 施予定時期等）	
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行		変更後
高 度 急性期			・公立病院として、二次救急医療や、へき地医療、小児医療等の政策的医療に加え、急性期医療を担う地域の中心的な病院の一つとして地域住民に安定した医療を提供している。	・萩医療圏の二次救急医療体制の維持に向け、救急医療に係る人員・設備等の体制を維持・強化する。 ・地域のへき地診療所等への代診医師の派遣等を通じ、へき地医療拠点病院としての役割を果たす。 ・萩医療圏内で唯一小児科を有する病院として、専門的な外来診療および入院医療等を提供し、小児医療体制の維持に努める。 ・感染症対策については、県が定める入院協力医療機関としての役割を果たすため、人材育成等を進め、平時から感染拡大時に対応できる体制の確保に努める。 ・北浦地域における心疾患医療の中核を担う病院として医療機能の維持を図る。併せて、MRI、CT、血管造影装置等の高度医療機器の充実を図り、高度専門医療体制の維持に努める。 ・地域の医療提供体制の確保に向け、中核病院の形成を含め、関係医療機関等と協議を重ねながら、引き続き検討を進めていく。	高 度 急性期			実施済み
急性期	100	100			急性期	100	<u>100</u>	
回復期					回復期			
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	100	100			合 計	100	<u>100</u>	